

令和三年（2021）度アサンプション国際中学校高等学校 学校評価報告書

I 理念

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」、また5つの基本理念「LIFE TRUTH FREEDOM GOODNESS ONENESS」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す
～「アサンプション21世紀型教育」の充実と定着

II 最重要課題

1. 入学者の確保：中学校65名以上、高等学校135名を目標とした広報戦略の強化
2. アサンプション21世紀型教育をさらに定着し充実するため、学校全体・教員個人の教育力の向上
3. 学校改革に見合った施設設備の充実

【学校評価アンケートの結果と分析】

今年度もClassiを利用してのネットアンケート方式を採用した。

（保護者）

昨年度の調査と同じく、「今のクラス・学級に満足」について保護者の7～8割が肯定的回答をしており、学年・学級経営や担任への満足度は高い。次に肯定的評価が高いのは、「工夫した授業」、「生徒指導」、「情報発信」についての項目で、教員のがんばりが評価されていると言える。

その一方「大学入試への対応」については肯定的評価が4割であり、昨年度と引き続き進路に関する情報発信が不足しているものと思われる。また「学校行事」「部活動・宗教活動」については、肯定的評価が3～4割と低く、コロナ禍で保護者が参加できる行事や来校機会の減少の影響も大きい。

次年度のへの改善としては、行事を可能な限りコロナ禍の前に戻し保護者もその様子がわかるようにすること、進路関係の情報を保護者にも共有することが必要である。

（生徒）

生徒の調査でも「今のクラス・学級に満足」について8割近くが肯定的回答をしており、学年・学級経営や担任への満足度は高い。次に肯定的評価が高いのは、「工夫した授業」についてで、75%の生徒が肯定的評価をしている。進路については「大学入試への対応」は45%が肯定的回答で低いが、「進路について考える機会の提供」では75%が肯定的回答をしている。ここから見えるのは、進路指導部からの働きかけの不足ではなく、受験対応という教科指導が課題かもしれない。

「学校行事」「部活動・宗教活動」についても、肯定的評価が6割であり、保護者アンケートより数値は高いが、コロナ禍で思うように学校行事・クラブができない現状を反映していると思われる。

（教員）

教員への調査では、「分かりやすい授業」の肯定的回答が8割であり、生徒の調査結果と合わせ、教員が「わかりやすく丁寧な授業」に力を注ぎ、それが生徒にも伝わっていることがわかる。

保護者・生徒からの評価が高い「今のクラス・学級に満足」について、教員の肯定的評価は5割であり、保護者・生徒の肯定的評価が8割近いこと比較すると、教員はもっと自信を持ってよいといえる。その一方「大学入試への対応」については肯定的評価が4割であり、進路指導部からの情報を共有し生徒に向けて発信することや、自教科の受験指導についてさらに研究を重ねることが、重要である。

Ⅲ 本年度最重要課題に対する施策、及び自己評価

最重要 課題	今年度の 重点目標 (Plan)	具体的な取組 計画・内容 (Do)	評価指標 (Check)	自己評価 (Action)
1 入学者の確保・広報戦略の強化	(1) 中学校65名 高等学校135名 を目標とした広報戦略の強化	1)Webページによる情報発信力の強化	ア)紙媒体によるイベント告知からWebページへ誘導する流れを確立する。 イ)Instagramによる様々な学校情報の発信 ウ)広報戦略会議の小・中高連携	ア)結果：○ 各イベント毎にチラシを作成し、塾・公立中へ都度配布した イ)結果：○ 学校ブログのこまめな更新や、学校のInstagramによる発信、パンフレットと連動したWebの更新など、ネット上での情報発信の充実を目指した ウ)結果：△ 管理職を中心に小学校保護者向け説明会などを行ったが、併設小学校からの入学者の減少を見ても、さらなる連携が必要。
		2)説明会の目的を明確化と内容の充実	ア)「生徒を見せる」企画の立案 イ)イベント回数の増加	ア)結果：○ 在校生、卒業生による学校説明、生徒による歓迎パフォーマンス、手伝い生徒の起用、公開授業の実施などいずれも参加者に高評価を得た。 イ)結果：○ 例年より回数を増やし、中学校は前半に、高校は後半を中心にニーズの高い時期の回数を増やした。10月以降は小規模なイブニング説明会も実施し、取りこぼしがないようにした。
		3)内部満足度の向上	ア)修学旅行・生徒会行事の活性化	ア)結果：△ 合唱コンクールの中止、学院祭の縮小などコロナの影響は残ったが、可能な範囲での実施を行った。 中3・高2の修学旅行、中1・2のイングリッシュキャンプは実施できた。昨年度数学旅行が実施できなかった高校3年生には代替行事を実施した。
		4)入試制度の改善	ア)高校入試面接の休止 イ)中学入試結果 ウ)高校入試結果	ア)結果：○ コロナ対応の一つとして、高校入試における面接を休止した。 イ)結果：△ 中学入学者は48名(外部40名+内部8名)であり、昨年度より12名増加した。この2年間のごまめな塾訪問の効果があつたと思われる。 ウ)結果：△ 高校入学者は124名(外部87+内部37名)であった。昨年度より17名増加した。志願者も昨年度から53名増加の143名が受験した。公立中学からの信頼関係も獲得できてきている。

2
教育力の向上

<p>(1) 21世紀型教育の定着と充実に向けての教育力向上</p>	<p>1)英語イマージョン教育の充実</p>	<p>ア)イマージョン委員会を設置</p> <p>イ)オリジナル教材の製作</p>	<p>ア)結果：○ イマージョン委員会を設置し、担当ネイティブ教員同士の連絡・情報共有を行っている。</p> <p>イ)結果：○ 高校理科・数学について、ネイティブ教員を中心に、オリジナル教材を制作している。今後も学年進行で整備予定。</p>
	<p>2)PBL教育の推進</p>	<p>ア)授業研修の充実</p>	<p>ア)結果：○ 授業プロジェクト委員会を設置し、年4回の自主勉強会、年2回の授業研修会、年1回の授業見学週間を実施した。コロナ禍ということで難しが、各自で外部の研修会に参加するなど自主的な取り組みへの昇華がめざしたい。</p>
	<p>3)ICT教育の充実</p>	<p>ア)ICTを活用した授業の推進</p>	<p>ア)結果：△ 学校全体のLAN環境整備やサーバ構築など環境整備は進んだが、つながりにくいなどの課題は残り、管理する教員への負担は大きい。 その一方コロナ禍のオンデマンド授業を経て、ICTを活用した授業はほぼ全教員が行うようになってきた</p>
	<p>4)グローバル教育の充実</p>	<p>ア)国際交流プログラム・短期留学の充実</p> <p>イ)語学検定など、資格取得の推進</p>	<p>ア)結果：△ コロナ禍で海外研修はストップしていたが、受入れが可能となったターム留学から再開することができた。待機期間があるため短期研修の再開は難しいが、中長期の留学から再開する。</p> <p>イ)結果：○ 英語検定は中学生全校実施を、また外部業者による英検対策講座の実施など、資格取得を推進している。 また校内でGTEC、TOEFL、フランス語検定、DELFDALF、硬筆・毛筆検定、漢字検定などの受験を積極的に勧め、資格取得者を増やしている</p>
	<p>5)進路実績の向上</p>	<p>ウ)海外進学を意識したイベントの充実と実績</p> <p>ア)関西学院大学との教育連携強化、指定校推薦枠を利用できる生徒の増加</p> <p>イ)受験による進学実績の向上</p>	<p>ウ)結果：○ 高校生向けに、国際交流センターが主催し、定期的に海外進学・留学説明会を実施した。</p> <p>ア)結果：○ 高1・高2向けの関西学院大学訪問はコロナ禍により実施できなかったが、関学への進学者は2年連続10名以上となった。指定校推薦の利用者の割合は40%前後と例年と変わらない。</p> <p>イ)結果：△ 総合型選抜などを効果的に活用し、今年度、国公立大学進学者が4名、獣医</p>

		6)教員個人の教育力向上	ウ)「個々の能力にあった教育」 ア)教員対象授業研修の実施 イ)若手教員向けの教員研修の充実	学部1名、関関同立・産近甲龍など受験による進学実績も向上した。また浪人生ではあるが医学部へも2名の生徒が進学した。 ウ)結果：○ 生徒数・クラス数の増加の中にあっても、担任・学年団を中心として生徒一人一人に寄り添い、個々の能力や性格にあった教育を提供できた。 ア)結果：○ 教員対象の授業に対する全体研修を実施し、個々の教員の授業力向上に繋げることができた。 イ)結果：△ 相互の授業見学などの呼びかけを行い、自主教員研修への参加もあったが、コロナ禍もあり研修を行う機会は少なかった。
3 施設設備の充実	(1) 学校改革に見合った組織と施設設備の充実	ア)中高男子サッカー部長期計画 イ)教室の整備 ウ)環境の整備と充実 エ)小学校との連携	ア)中高男子サッカー部についての長期計画を検討する イ)クラス数増に見合った教室の整備 ウ)部室、更衣室、ICT環境等の整備と充実を行う エ)様々な面で、併設小学校との情報共有、連携を行う	ア)結果：△ 中学サッカー部が全国大会出場を果たすなど大きな成果が出た。人員計画についてはグラウンドの規模から最大100名程度までと学院との取り決めに変更はない。 イ)結果：○ 中学校全学年3クラス、高等学校全学年4クラスに対応できる教室を整備した。2021年度は2教室を小学校に貸与している。 ウ)結果：△ ICT環境についてはICT委員会と業者に協力により継続的に整備を続けている状態である。部室・体育館の熱中症対策が必要であり、冷房設置などの検討が必要。また普通教室の冷房装置、メディアルームのPCなど更新が必要な機器もあり、法人事務局による設備投資計画が必要である。 グラウンドの周辺対策として、ネットのかさ上げや南面への追加工事を要望した。 エ)結果：○ 中学校・高等学校の校長が小学校校長を兼ねる形で情報共有・連携を目指し、一定の成果はあったと思われる。

【学校関係者評価】

- ・学校行事は生徒の成長にとって不可欠であり、コロナ禍であるからといってすぐに中止とせず、内容を工夫して実施する方向ですすめているのは評価する。
- ・コロナ禍で保護者が学校に来る機会が減少している。保護者同士の交流や生徒の様子を見るためにも授業参観、次年度は公開行事などを復活させてほしい。
- ・大学入試の状況の変化が激しく、保護者も自分たちの経験が通用しない。学校が収集した新しい情報をこまめに生徒・保護者へ発信し、進路指導をさらに充実させてほしい。
- ・大学受験のための知識だけでなく、18歳成人をふまえた主権者教育や、契約・投資といった経済教育も大切に思う。生徒や保護者に対してこういった学びの場を提供してほしい。
- ・保護者を取り巻く環境も変化している。父母の会の組織・仕事の在り方や負担減など、学校と一緒に父母の会の新しい在り方について検討してほしい。